【様式１】　平成２９年度「岐 阜 県 ふ る さ と 教 育 表 彰 」 実 践 報 告 書

市町村名	美濃加茂市	学 校 名	美濃加茂市立山之上小学校			
校 長 名	長谷川久栄	対象学年	４年・５年・６年・全校	人 数	２９人・２２人・２４人・１４０人	
活 動 名	環境水路学習（４年生） 米づくり（５年生） 梨づくり（６年生） 森林学習（４・６年生） アベマキの天板づくり （５・６年生での２年間） ふるさと祭り（全校）	時間数	４年生（４時間） ５年生（１０時間） ６年生（１０時間） ４・６年生（３・６時間） ５年生（５時間） ６年生（１０時間） 全校（４時間）	継続年数	５年以上 ２０年以上 ２０年以上 ２年 ３年 ４年 ３年	
題 材	① 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） ［ 地域に自生するアベマキの利用・森林学習・環境水路 ］ ② 歴史（出来事・史跡・先人・その他）［白隠禅師 ］ ③ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他）［縄ない・餅つき・山之上こども音頭］ ④ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他）［米づくり・梨づくり ］ ⑤ 地域との積極的な関わりをつくる活動等［地域講師との体験活動・地域行事への参加］ ⑥ その他（ 地元保育園との交流活動 ）［ ］					
複数年継続するための工夫改善	・学校の行事や取組を地域に常に発信することを心がけ，体験活動における地域講師の依頼を積極的に働きかけ，地域から学ぶ機会を設定した。地域で行われている「山之上町民ふるさと祭り」を学校公開日とし，地域のよさを感じる場，人々との関わりをもたせる場とした。地域の一員としての自覚をもたせた。 ・地域の自然をより身近に感じられる体験学習の場を設定し，地域へ広げる工夫をした。活動前後の体験活動を工夫し，活動に一貫性や流れをもたせるようにした。					

１　ねらい

体験活動や地域の方々との関わりの中で，ふるさと山之上の自然や文化，産業を学ぶことを通して，ふるさとのよさを感じ，ふるさとへの愛着心や誇りを育てる。

２　活動の概要

（１）　環境水路調査

・４年生児童が学校近くの間伐材を活用した環境水路で可茂農林事務所等の指導者を招いて，環境水路の仕組みを学び，水質調査や生き物調査を行う。

・生き物調査をもとに，水路内の環境や環境水路の生態系を学び，身近な環境について考える。

（２）　米づくり

・５年生児童が学校田で地域講師を招いて米づくりの一連の作業を体験する。作業の大変さや機械化によって作業効率が図れること，収穫までには多くの手間がかかることを体験する。地域講師と触れ合うことで，地域の人々に支えられていることを感じる。

・収穫したもち米は，「ふるさと祭り」で餅つきを行うと同時に，全校児童や保護者，地域講師と一緒に味わったり，販売したりする。収穫の喜びを感じる。

（３）梨づくり

・６年生児童が学校梨園で地域講師を招いて梨づくりの一連の作業を体験する。それぞれの作業の必要性を学ぶとともに手作業の大変さや，収穫までには多くの手間がかかることを体験する。地域講師と触れ合うことで，地域の人々に支えられていることを感じる。また，地域の特産物が守られていることや地域の産業に誇りをもってみえることを感じる。

・ＰＲポスターを作成し，農園や販売所に掲示を依頼する。農園主と話をすることで，地域の特産品をより身近に感じることができる。

・収穫した梨や，梨を使って作った「梨ジャム」を全校児童と一緒に味わい収穫の喜びを感じる。

（４）　森林学習

・市農林課，可茂森林組合と連携をとり，４・６年生が校区にある森林で観察をしたり森林の働きや森林整備の大切さ，森林が地域の素晴らしい資源であることを学んだりする。

・４年生児童は社会科の学習や総合的な学習で行っている環境学習と結ぶ。里山森林を観察し，そこで集めた材料を「ふるさと祭り」で活用する。

・６年生児童は「天板づくり」と結び，アベマキの観察をしたりアベマキの苗木を植林したりする。実際にアベマキを伐倒し，地区防災訓練では伐倒した木で薪を作り，「ふるさと祭り」でもち米を蒸すのに使用する。ふるさとの木の活用方法を考える。

（５） アベマキの学校机天板づくり

・市農林課，可茂森林組合の協力で，地域の里山に自生しているアベマキの有効活用を進める。

・５年生児童は，里山でアベマキの伐倒作業を見学し，樹木の表皮を削る等の体験活動やアベマキに「しいたけの菌打ち」を行う。

・６年生児童は「天板づくり」を行う。県森林アカデミーの協力で，アベマキを使って次年度入学児童の机の天板を作る。机は６年間使用し，卒業時には天板を記念品に加工して持ち帰る。また，製材所を見学し，加工過程を学ぶ。

（６）ふるさと祭り

・地域自治会主催で毎年行われている「山之上町民ふるさと祭り」に合わせて，共催する立場として学校公開日として，「ふるさと祭り」を行う。各学年が地域講師のもと体験的な活動を通して，地域の人々の知恵や昔からの生活などを知り，ふるさと山之上のよさを知るとともにふるさとを大切にしようとする心を育てることをねらう。

１年生：昔の遊び（１年教室）→地域のお年寄りとお手玉やコマまわし，けん玉等

２年生：クリスマスリース作り（２年教室）

→地域講師を招き育てたさつまいものつるを使ってリースをつくる。

３年生：福祉体験（教室，廊下，階段等）

→社会福祉協議会職員を講師にお年寄りの体の状態やお年寄りへの接し方，感謝の気持ちをもつことの大切さなどについての講話を聴く。疑似体験をする。

４年生：木工教室（４年教室）

→市農林課，可茂森林組合の協力を得て，森の木や木の実を使った作品をつくる。

５年生：もちつき（ピロティ―）→地域講師を招きもちつきを行う。きなこ餅づくり。

６年生：わら細工（なかよし広場）→地域講師を招き縄ないと正月飾りを作る。

・「ミニワールドルーム（英語教室）」を開放，地域の方に英語本の読み聞かせ等を行う。

・開会セレモニーで，「山之上こども音頭」を発表する。

・「５００年に１度の名僧」と言われ，山之上を修業の場として選んだ白隠禅師僧について全校で学び，白隠禅師顕彰会主催の書道展に全校児童が書写作品を応募する。

３　地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

・「開かれた学校，地域とともにある学校」を心がけ，年間を通しそれぞれの学年が地域講師や諸団体との連携を図って活動を進めてきた。学校の活動や児童の様子を知ってもらうとともに，地域からの助言や支援をいただくことができた。地域の方の方から，活動がより充実できるような内容の提案や新しい講師の方の紹介をいただけるようになった。児童から進んで声をかけたり，自ら学ぼうと質問したりする姿も増えてきた。また，地域での児童の良さや気になる姿を教えていただいたり，児童に直接声をかけていただいたりすることが増えてきたように思われる。以前にも増して学校に目が向いていることを感じている。

・古くから歌い継がれている「山之上こども音頭」の歌詞を編集しなおし（新しい地区名を追加した），市の音楽会で発表したり地域の行事で地域の方と一緒に歌ったり踊ったりしている。まちづくり協議会の方を講師に招き，全校で踊りの練習会を行った。夏祭りには「山之上こども音頭コンテスト」を実施している。

・保護者環境整備活動では，可茂森林組合の協力を得て，伐採した地域の竹を利用し，まちづくり協議会や市農林課の方を講師に招き，全校児童で「竹あかりアート」を制作した。夏祭りに展示し，会場を盛り上げた。

・地域にある保育園とのつながりを見直し，ふれあう機会をできるだけ多く設定するようにした。「山之上こども音頭」の練習会や，５年生の米づくりの体験（田植え・稲刈り）への参加を呼びかけ，一緒に活動した。また，英語教室での体験学習や図書室での本の貸し出しも行っている。入学時の不安の軽減につながると考えている。

４　活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

・地域の様々な年齢や立場の方々とのふれあいを通して，地域のよさを知ったり，地域の方に支えられているという気持ちを味わったりすることができた。また，地域の方に進んで声をかけたりあいさつしたりすることが増えてきた。コミュニケーション力を育てる良い機会と感じている。

・体験活動を通して，仲間と協力する楽しさや一つのことをやり遂げる素晴らしさを感じることができた。仲間に進んで声をかける力，仲間や相手を思いやる力，活動の見通しをもつ力も育ちつつある。

・他学年の活動を知ることで，「来年はこれだな。早くこれをやりたいな。」という，楽しみをもつことができた。あこがれをもつことにもつながっている。